

## 海老名市 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

### 1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

令和 6 年 3 月に神奈川県教育委員会と協定を結び、海老名市がフルインクルーシブ教育推進市町村の指定を受けた。

令和 6 年度から、教育大綱にも「フルインクルーシブ教育の推進」を明記し、海老名市のすべてのこどもが、小学校、中学校でともに学べる環境の実現に向け、

- ・「みんなでめざす」意識改革や、市民研修会などの充実を図る取組
- ・「みんなで支える」教育相談コーディネーターを中心とした、校内の支援体制の充実を図る取組
- ・「みんなで見直す」現状の評価や就学相談のあり方などを見直していく取組
- ・「みんなで整える」すべてのこどもが安心して学べる環境作りのための取組を進めている。

以上の計画をもとに、『誰ひとり取り残さない教育』…多様性を認め、包摂性を重んじ、ひとりひとりの学びを保障する教育を市として進める。

予測困難なこれからの時代を生きるこどもたちには、主体的・対話的に課題の解決へと向かう過程で深い学びを実現することが大切である。

以上のような教育を進め、児童生徒の学びを実現するために、「海老名市学校 ICT 活用推進計画」を策定し、学校教育の情報化を一層加速していく。

### 「令和 6 ～ 10 年度 海老名市学校 ICT 活用推進計画」より

○ICT 活用推進をとおして目指す姿と基本的な方針

デジタルの力で、未来を生き抜く資質能力を身につける学びをすべてのこどもに保障する ICT 教育、そのためには、教員の知見と ICT を最適に組み合わせて児童生徒の学び方を改革すること、ICT によって教員の働き方改革を推進すること、技術革新や学校の実態を踏まえた、ICT 環境や推進体制を構築することが必要

#### (1) ICT を活用した学びの充実、資質・能力の育成

##### ①情報活用能力の育成

- ・「海老名市情報リテラシー・モラル学習計画」の策定

##### ② ICT を活用した授業の充実

- ・ICT を活用したこれからの学びの在り方の共通理解
- ・授業支援ソフトの導入と活用のための研究
- ・生成 AI を活用した学習の研究

##### ③ひとりひとりの状況に応じた支援

- ・個別最適な学びに向けた研究（デジタルドリル等）
- ・教育データの収集と活用に向けた研究（採点システム）
- ・長期欠席の児童生徒等の学びの保障のための活用を研究
- ・ICT を活用し、児童生徒の SOS の早期発見

- ④家庭等でのICT活用
  - ・効果的な端末持ち帰りの研究
- ⑤インクルーシブな視点での活用の推進
  - ・支援が必要な児童生徒へのICTの効果的な活用法の研究
- (2) 教職員のICT活用力の向上と人材確保
  - ①教職員の資質向上
    - ・授業と校務で活用するための研修の実施、研究成果の普及
  - ②教育データの共有
    - ・学習e-ポータルや授業支援ソフトの活用
  - ③情報教育支援員の活用
- (3) ICT環境整備
  - ①教員用ネットワークの統合
    - ・ゼロトラストの考え方でアクセス制御（セキュリティ強化）したうえで、校務系と学習系のネットワークを統合
  - ②学校情報セキュリティポリシーの改訂
    - ・「①教員用ネットワーク」と一体的に検討
  - ③次期校務支援システムの導入・活用
    - ・「①教員用ネットワーク」と一体的に検討
  - ④1人1台端末の導入・更新
    - ・端末、装備等、活用推進のために有効な仕様を検討
  - ⑤ICT機器等の整備
    - ・プロジェクターやプリンター、PC端末等の更新、ネットワーク環境の整備

## 2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想により、1人1台端末が整備されて3年が経過した。学校教職員の皆様のご協力で、ここまでのところで「すぐに・様々な場面で・誰もが活用できる1人1台端末」となってきた。今後は、

○個別最適・協働を実現し、教科の学びを深めるために活用する1人1台端末

○教材作成・データ移行・成果物管理・評価など、教員の校務で活用する1人1台端末

のために『授業支援ソフト（アプリ）の導入・活用』が鍵となると考える。

各小学校において授業支援ソフトを選んで導入し、

○共通の理解のもと市内全体で研究を進め、ICT活用授業の推進をさらに図っていく。

○教員の異動に関わらず、有効にソフトを活用する。

ことを目標として、試行・研究を進める。

これまでの整備では、令和2年度の学校への無線LAN整備から始まり、コロナ禍で前倒ししたタブレット端末調達がなかなか進まずに心配する場面もあったが、令和3年度に児童生徒の1人1台端末の配備が無事完了した。

活用の中でネットワークの速度改善のため、令和5年2月に全校の接続方式変更作業を実施し、プロバイダーを変更。令和6年8月にはネットワーク接続契約を1Gbpsから10Gbpsのものに変更して高速化を図った。今後も活用の推進に耐えられる環境整備を併せて検討していく。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

「1人1台端末の家庭等での更なる利活用の推進としての端末持ち帰りについて」

教材や学習用具としてICTを活用し、児童生徒の主体的な学びを引き出すべく、海老名市では1人1台端末の更なる利活用の推進に向けて準備を進めている。令和6年度においては毎日持ち帰りの方針を進める。

○毎日持ち帰り、家庭等で使用する。

※行事等、学校事情によっては持ち帰らない日があってもよい

なお、各校の状況により、持ち帰りに係る運用に変更がある場合は各校から保護者へ説明する。

○「毎日持ち帰り」の開始時期

- ・各学校の準備が整い次第、開始。
- ・小学校1年生については、夏休みの持ち帰りから開始を目安とする。
- ・中学校1年生については、5月の連休明けからの開始を目安とする。

○持ち帰る目的（使用場面・活用方法）

※「使用場面・活用例」を作成し教員と保護者に提供する。

「令和7年度導入 海老名市授業支援ソフト選定のための研究について」

○目的

現在、「セカンドGIGAスクール」の段階において、

- ① 個別最適・協働を実現し、教科の学びを深めるために活用する1人1台端末
- ② 教材作成・データ移行・成果物管理・評価など、教員の校務で活用する1人1台端末

が求められる。この2つの視点での活用を進めるには、『授業支援ソフト』の導入が必要である。また、市内全学校、全学級の児童と教員が有効に活用するために、市としてソフトを統一して導入する。

○研究期間 6月～9月

○研究を依頼する団体

- ・学校ICT活用推進委員会（小学校）
- ・海老名市小学校教育研究会ICT教育部会

○9月以降 予算化へ向けた準備